

こんなに違う！五山送り火の景観

今年も五山送り火は行われました。東日本大震災の影響もあって順調に進まなかったときもありましたが、無事に行われたことに安堵しています。このような美しい風景は是非みなさんで守っていききたいものですね。写真をご覧ください。

どうですか？大文字山が電線によって隠れていたのが、電線類地中化によって本当に美しい風景に変わりました。夜の送り火も綺麗に見られそうですよね。

日本に他の国に負けない美しい風景がたくさんあります。海に囲まれ、山も多く、歴史的建築物も日本の各地にあります。そんな自然や歴史の景色に電柱・電線は似合うと思いませんか？大文字山の写真を見て比べて頂ければ一目瞭然です。

日本が好きなら電線類地中化を進めて日本の美しさを守り、もっと好きになりたいと願うと思います。身近な人にこのような写真を見せて電線類地中化の素晴らしさを教えてあげてください。



【ご案内】「電柱のない街づくり」出版1周年記念東京セミナーに小池百合子先生！？

「電柱のない街づくり」出版1周年記念セミナーでは、なんと国会議員である小池百合子先生にお話をしていただけることになりました。小池百合子先生の簡単な紹介をさせていただきます

小池 百合子 (こいけ ゆりこ)

衆議院議員。自民党総務会長。元防衛大臣。元内閣総理大臣補佐官（国家安全保障問題担当）。元環境大臣・内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）。1952年7月兵庫県芦屋市生まれ。1976年カイロ大学文学部社会学科卒業。アラビア語通訳を務め、88年から『ワールドビジネスサテライト』（テレビ東京）の初代キャスターとして活躍（～92年）。1992年7月、政界に身を投じ、現在まで参議院議員1期、衆議院議員6期連続当選。2003年9月環境大臣就任に加え、翌年9月沖縄・北方対策大臣を兼任。2007年7月には女性初の防衛大臣を務めた。2008年9月女性で初めて自由民主党総裁選挙に立候補。中央大学大学院客員教授。著書に『エコだハウス』、『もったいない日本』、『女子の本懐』、『小池式・コンセプトノート』など多数。「クールビズ」のプロデュースなど発想力には定評がある。



小池百合子先生は「空中を電線と通信線がクモの巣のように張り巡らされ、青空を塞いでいるのは、先進国の街並とは言いがたい。東京の繁華街でカメラを構えた外国人旅行者が移す被写体は立体駐車場とクモの巣状態の電線だ。どちらも物珍しい風景のようだ」と日本の電柱の多さと景観の悪さに注目しており、電線類地中化にとっても協力的です。「電柱の林を並木道にかえる議員連盟（略称：並木道議連）」の幹事長を務めています。ぜひ「美空」を読んでいるみなさま、小池百合子先生の講演を聞きに来てください。

【エッセイをお寄せください。】

皆さんが日本の電柱・電線社会の現状について感じられていることをエッセイとして綴り、お送りください。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。

1000～1500文字、簡単な自己紹介（お仕事、住所等）とポートレット（顔写真）を添えて下さい。送付先はE-Mail: info@NPNPC.org です。投稿をお待ちしています。

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上、志熊、根井、西川、西條

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう！

美空～MISORA～

第37号

発行日：2011年8月25日（木）

発行者：NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

【活動報告】

7月22日（金）COM 計画研究所の理事会で東京セミナー決定！

■決定事項

大阪の今後のセミナーは『電柱のないまちづくり』をテキストとして使用することになりました。東京のセミナーは小池百合子議員を講師として行います。（検討段階）

■セミナー報告

参加人数は理事、事務局員を含めて、56人でした。本の販売数は6冊で、収入26,000円、支出22,280円でした。アンケートでは「無電柱化は防災に強い事を知り、衝撃を受けた。」という高評価や、「日本全国地中化することは難しいのではないか」という声もありました。

① 技術開発委員会

DDBOX 技術のカタログ配布と河内長野の電線共同溝について話はまだ進んでいませんでした。DDBOX 技術カタログのキャッチフレーズの案は「low コスト low メンテナンス」という意見を高田氏が出しました。今後の課題として使用教材をどうしていくかという点と河内長野の件も早く詰めていくべきという点が挙げられました。

② 世論形成委員会

荒関氏は電線類地中化について複数の環境整備課に電話しましたが、地中化に対する市の認識が甘く、なかなかアポを取ることができなかったそうです。これに対し、自治体でなく県にアピールすることと負担金当を数値化した答申書作成することで対処していく予定です。

③ 事業協力委員会

河内長野市は進展がなかったので、井上事務局長が確認し、小金井市を無電柱化していく話し合いを8月末に設ける予定です。

④ 今後のセミナーについて

異業種交流会の必要性について疑問視されましたが、NPO 会員の顔合わせや情報交換の交流イベントとしてやっており、セミナー化しつつあると返答されました。さらに、本をテキストにして、具体的な事例を教えるセミナー、つまり地中化をどう広めていくかを教える地中化演習を行っていくべきであるとなりました。世論形成委員会と事務局員がセミナーについて進めていき、東京のセミナーには小池百合子先生に講演を依頼することになりました。



NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 (株)ジオリズム内 根井 井上
Mail: info@NPNPC.org, <http://nponpc.org> Tel: 072-653-5811 Fax: 072-653-5833



スペインの街並みと電線類地中化事情

株式会社ジオリズム 西井康之

今年の7月にスペインを旅行しました。その中で、いくつか気になったことや、目にしたものを写真に収めてきましたのでご紹介します。海外の街並みや電線類地中化事情が少しでも伝われば幸いです。

最初の写真は、まるでディズニーランドのような街並でした。作り物ではない、活きているスペインの美しい街並を見てディズニーランドみたいと表現するところが日本人らしく、自分の美意識にがっかりです。

美しい景観を見て「日本の街並の様だ」と言えるように日本の街並も変われば良いな～と思います。

大通りから一本裏道に入ると人通りは少なくなりましたが、道路や歩道が広いので歩き易かったです。これなら露店を出しても余裕のある道幅ですね。

歩道上の四角いマンホールの蓋には、テレフォンと書いてあるので、電話線だと思えます。いやきっと電話線です。

ピカソの生家の近くの歩道を歩いていると、道路に大きな穴が！陥没？？と思い覗き込んでみると地中化の修理と思われる配管工事現場を発見！

ある管は相当錆びていますし、表面近くの横断管（ピンクの蛇腹管）はぶつつり切断されています。また、黒いケーブルのようなものは、保護管にも入れられることなく、裸のまま吊り防護されています。日本の地中配管と比べるとあきらかに「テキトウ」ですね。こんなので本当に大丈夫なのでしょうか？逆に日本のスペックや品質基準が高すぎるのでしょうか…。

日中だったので作業員の方々はシエスタ中で無人でした…。

[特集]東日本大震災の影響！東京電力にインタビュー！

都の電線地中化ピンチ

東電「費用負担ムリかも」

東京電力福島第一原子力発電所の事故で、東京都が防災対策の一環として進める都道の電線地中化事業に「費用負担ムリかも」として、費用の一部を担うべき理由が廃止事故で巨額の賠償責任を負い、今後の事業参加が白紙になったためだ。都は「都市防災の観点から、電線地中化は待ったなしの状況なのに」と頭を抱えている。

「無電柱化」とも呼ばれる都の地中化事業は1988年度にスタート。歩道を闊歩してトンネルを作り、電柱間に張り巡らされていた電線や電話線、ケーブルテレビ用の通信線などを地下に埋めて電柱をなくしていく。全長約2300キロ、対象する都道は、環状7号線や山手通りなど震災時の夜間活動客を狙う幹線道路が多い。このため、東日本大震災を受けて都は、緊急対策として地中化事業の促進を改めて盛り込んだ。地中化には、水道管やガス管の移設など、1キロ当たり6億円程度かかる。今年度は総額約750億円を費やして約10キロ分の地中化に着手

2011/8/7 読売新聞に右の記事が載せられました。東日本大震災の影響で電線類地中化が滞ってしまうかもしれないという内容です。国の方針としては、電線類地中化を進めていくことになっていますが、この記事が本当だとしたら矛盾してしまいます。そこで東京電力に直接電話したところ、まだ結論は出ておらず、1ヵ月ほどでまとめてくれるそうです。来月か再来月の「美空」には結果を載せられると思います。どんどん電線類地中化の素晴らしさは全国に浸透しております。景観面、防災面、バリアフリー面から日本には必要不可欠といっても過言ではないでしょう。東京電力も避けては通れません。東日本大震災の影響で東京電力はどう動くのか。これは目が離せない話題です。



2011.8.7 読売新聞

電線類の地中化が進む都道の歩道陥没、9日、東京電力にインタビュー

「電線類の地中化が進む都道の歩道陥没、9日、東京電力にインタビュー」

管理する民間企業が負担する。都によると、東電の今年度は約100億円という。しかし、大震災後、東電は都に対して「巨額事故もあり、求年度以降は巨額の状況、負担できるかどうか分からない」と連絡してきたという。東電では巨額の賠償金を上面するための発行資本金の告知などが検討されており、東電からの連絡について、都は「賠償を最優先にするためでは」とみる。

地中化は、都のほかに神奈川県、埼玉県など東電管内の関東地方の自治体も取り組んでおり、東電の対応は弱み。その上で、「電力会社の事情に左右されないよう法律で地中化を義務付けたり、財政支援を一層強化したりするなど、国を挙げて防災対策として位置づけるべきだ」としている。

「NPO法人「電線のない街づくり」支援ネットワーク」理事長の高田邦・立命館大特任教授は都市計画は、「電柱は日本大震災の際、7月末の豪雨災害でも大きな被害を受けた」とも、脆弱なインフラ施設だ」と指摘。その上で、「電力会社の事情に左右されないよう法律で地中化を義務付けたり、財政支援を一層強化したりするなど、国を挙げて防災対策として位置づけるべきだ」としている。

こうした場合にも影響を及ぼす恐れがある。都の担当者は「民間企業1社の負担を都が代わりすることでは、東電に手を引かれると事業が立ちゆかなくなる恐れがある」と危惧している。

読売新聞 2011.8.7

都道の電線地中化事業の推移

読売新聞 2011.8.7

読者アンケート

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事、直してほしい事などありましたら気軽に t.saijo0929@gmail.com へ連絡ください。当 NPO と会員様、力を合わせて電線類地中化の素晴らしさを広げていきましょう！

当 NPO ではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

